

大槌ウインド・オーケストラ
岩間由華さん(26)

音楽でまちを元気にしたい

大槌ウインド・オーケストラ」は2013年5月に結成されました。町立大槌中学校、吉里吉里中学校、県立大槌高校の吹奏楽部OB・OGらによる町民楽団です。岩間さんは、中学、高校で吹奏楽部に所属し、クラリネットを吹いてきました。楽団結成にあたり、友人から声をかけられました。仕事をしながら続けられるかどうか不安でした。しかし、「自分たちの音楽でまちを元気にしたい。自分の出来ることは音楽だ」と思い入団しました。

団員は10名ほど。高校生から20代が主力のメンバーとなっています。週2回、練習し、町内の演奏会やイベントなどで演奏、結成1周年の平成26年8月には、サマーコンサートを開催するまでになりました。

「仕事場と仮設住宅との行き来だった生活が、打ち込めることが出来て張り合いがあります。人に聴かせる以上は、もっとうまくになりたいという気持ちがあります。メンバーの中にはスキルアップのために町外へ指導を受けに行く人も。初心者のメンバーもいて和気あいあいと練習しています」

団長を引き受ける時は仕事と両立

出来るかどうか不安でした。しかし後輩が頑張っている姿を見て、やってみようと決断しました。遠方にいるOBやOGに声をかけたり、様々な人との演奏や合同コンサートも視野に入れたりしながら活動しています。

「いろいろな人との関係が密になったり、自分自身の技術が向上したり、とても充実しています。結婚して子どもが出来ても続けたい。練習に子どもを連れてきてもいい。小さなお子さんのいるお母さんたち、また、町外から来ている方たちも入団大歓迎です！」

すっかりとした面持ちの中にも、大槌に遊ぶ所が欲しい、カラオケボックスでカラオケがしたい、という若者らしい横顔も垣間見せてくれました。



メンバーと練習に打ち込む岩間由華さん(前列中央)

「復興を支える人 支える団体」

大槌復興刺し子プロジェクト

大槌刺し子を地域ブランドに

2011年5月、ボランティアによる任意団体「大槌復興刺し子プロジェクト」として活動を始めました。城山公民館の避難所に支援に来ていた吉野和也さんが、避難所の女性たちの手仕事として指導したことがきっかけでした。日本の伝統的な技術である「刺し子」を施した商品を製作し、全国に販売しており、現在は大槌町花輪田に拠点を設けています。商品は大槌の鳥で親しみがあるカモメをモチーフにしたコースター、ふきん、ポロシャツなど。インターネットや町内外の店舗で販売しています。また、オーダーメイドや、企業とのコラボによる作品も製作しています。

づくりにも努めています。活動開始から今年の6月30日までの累計で、5万7千枚、6千500万円を売り上げました。

「技術指導の先生がいらっしやる」と、刺し子さんはみんな喜んで集まってくれます。また、お客様との「可愛い」とか、「いいもの」という声も励みになっていっています。大槌刺し子があることで、少しでも大槌を明るくできたら、と刺し子さんたちと話しています。地元の方々にももっと大槌刺し子を知ってもらいたいと思って頑張っています」と内野さんは話してくれました。



事務所での商品荷造り作業

横浜から震災後に移住してきたプロジェクトマネージャーの内野恵美さんは「刺し子は従来、家の中で、大切な人のために作ったものと聞いています。刺し子さんたちの技術も向上してきたので、『復興』という文字がなくてもお客さまに選んでいただけるような、付加価値の高い商品を作っていきます」と説明します。

作り手である「刺し子さん」の年齢層も、若いお母さんたちにも広がり、現在60名で品質の高い商品

〒028-1121

大槌町小槌第26地割

字花輪田128-4
TEL 0193(55)5368

Topics ひょうたん島プロジェクトに支援金～キリングループ

キリングループが日本財団の協力を得て大槌町の「ど真ん中・おおつち協同組合」の「ど真ん中・おおつち!ひょうたん島GO・GOプロジェクト」に支援金を寄贈し、7月31日、大槌町役場で贈呈式がありました。

プロジェクトは、サケ、イカ、ウニ、カキなど、大槌の海産物で新商品を開発し、ブランド化をめざします。寄付金は3,600万円。安渡3丁目の大槌漁港内に木造平屋建ての施設も造ります。

碓川豊町長は「大槌では水産加工技術が脈々と受け継がれてきた。ブランド化を期待してやまない」とあいさつし、協同組合の芳賀政和理事長は「三陸の海の幸を届けようと歯を食いしばってやってきた。おいしい水産加工食品を開発し、支援を受けた皆さんに恩返ししたい」と感謝しました。協同組合は芳賀鮮魚店、小豆嶋漁業株式会社、有限会社浦田商店、株式会社ナカショクの4者からなり、全国に約5,000人のサポーターがいます。



芳賀政和ど真ん中・おおつち協同組合理事長を真ん中に贈呈式に臨んだ関係者＝7月31日、町役場

Topics

3D映像で復興後の町並み写す～町が保育園で出前講座～

大槌町役場の担当者が復興事業の進み具合を現地に出向いて住民に説明し、意見を聞く「復興出前講座」が8月7日と9月11日、大槌保育園で開かれました。町側が3D映像で復興後の町並みをスクリーンに写し出し、模型を使って平成28年度開校予定の小・中一貫教育校について説明しました。

お母さんたちは園児をあやしながら聞き入り、「28年度開校が遅れることがないようにしてほしい」「通学路はどうなるのか」「プールは町民にも開放されるのか」などと質問しました。八木澤弓美子園長は「復興協議会に参加できないお母さん方が少ないので、このような機会は助かります。こんな町にしたい、なってほしいというお母さんたちの意見を伝えることができればいい」と話しました。

出前講座は、今後、様々な場に出向きます。町役場と町民が復興情報を共有する場、町民の意見を汲み上げて復興事業に反映させる場をめざします。



小・中一貫教育校についての説明を聞くお母さんたち＝8月7日、大槌保育園